

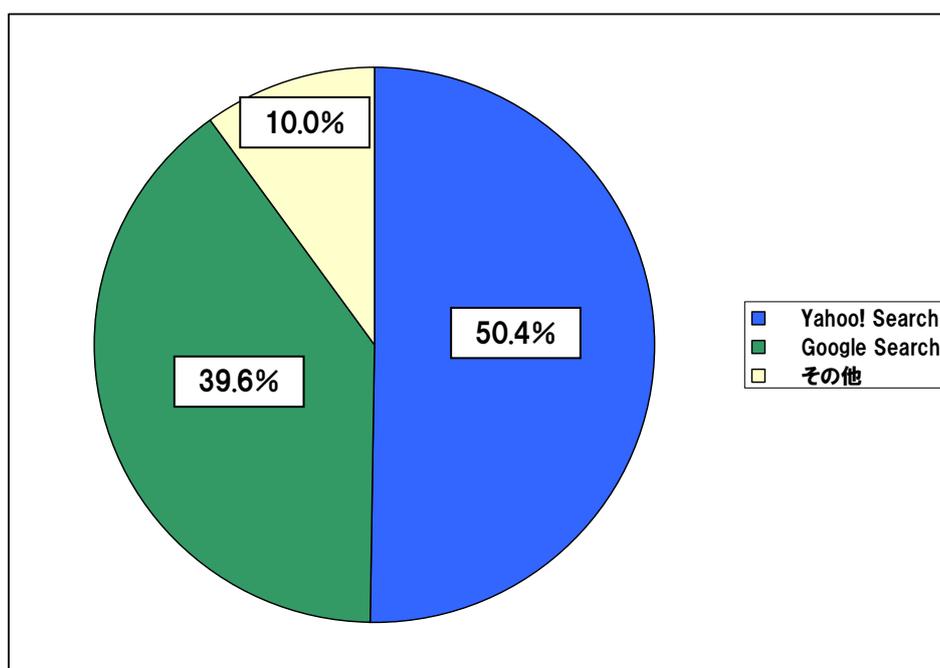
検索サービスに関する利用動向調査 (2011年2月) ～日本での検索利用、Yahoo!とGoogleが9割を占める～

アジア圏を中心に、東京、沖縄、シンガポール、韓国、台湾、香港、タイの7拠点で展開し、戦略的なグローバルマーケティングを提供しているアウンコンサルティング株式会社（東証マザーズ：2459、本社：東京都文京区、代表取締役：信太明）は、このたび、コムスコア・ジャパン株式会社の正規販売代理店として日本における検索サービスの利用動向に関する調査をまとめました。

調査結果

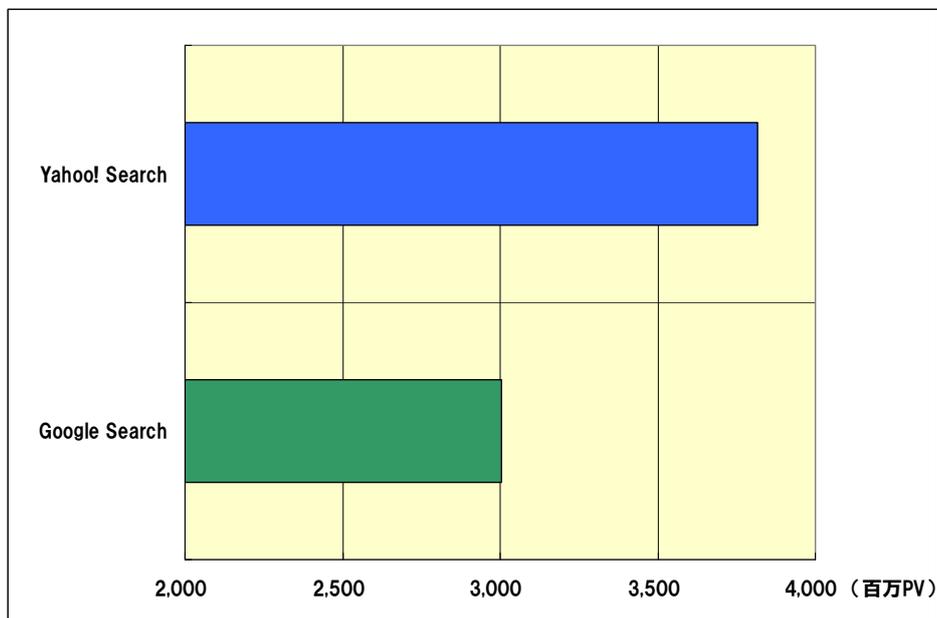
2010年7月にYahoo!がGoogleの検索エンジンを採用することを発表するなど、引き続き動向が注目される日本の検索サービス業界であるが、コムスコア社が提供する2010年12月のデータによると、日本の検索サービスカテゴリの総ページビュー数のうちほぼ9割をYahoo!とGoogleの検索サービスが占める結果となっています（図表1）。また、実際のページビュー数ではYahoo!が約38億ページビュー、Googleが約30億ページビューで、Yahoo!がGoogleの約1.25倍のページビュー数をほこります。（図表2）

図表1：検索サービスカテゴリ 総ページビュー数割合



出典：コムスコア / メディア・メトリックス (MMX) 2010年12月

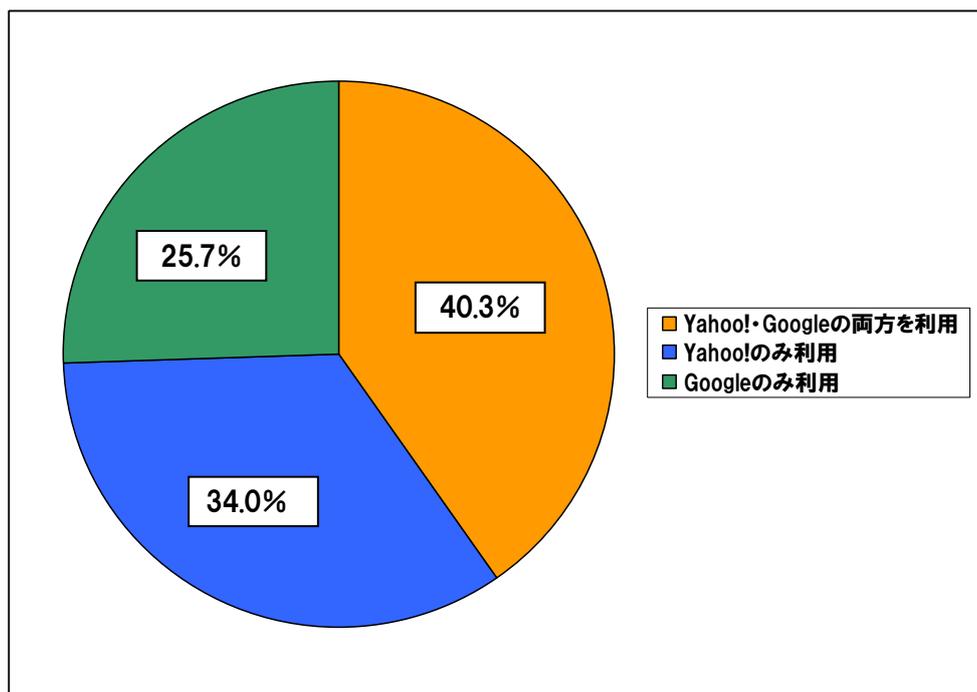
図表 2 : Yahoo!・Google 検索サービス 総ページビュー数



出典：コムスコア / メディア・メトリックス (MMX) 2010年12月

さらに、ユーザーのカバレッジを比較すると、Yahoo!が Google の検索エンジンの採用を決定した後も、Yahoo!と Google それぞれの検索サービスを利用したユニークユーザー数 (Yahoo!・Google のそれぞれを利用したユーザーは1ユーザーとしてカウント) のうち、Yahoo!を利用しているユーザーは約7割に及んでいます。(図表 3)

図表 3 : Yahoo!・Google のユニークユーザー数比率



出典：コムスコア / メディア・メトリックス (MMX) 2010年12月

しかしながら、大半をYahoo!が多く占める状況であっても約6割のユーザーはYahoo!もしくはGoogleのいずれかのみを利用する傾向にある。そのため、検索サービスへの広告出稿を考える場合、両検索サービスを活用して幅広い層へアプローチすることが効果的と考えられる。

調査主旨及び要綱

【調査主旨】

日本国内における主要検索サービスの利用動向を調査

【調査要綱】

- データソース：コムスコア社が提供するインターネット視聴率データ、メディアメトリックス
- 調査方法：コムスコア社が保有する調査対象パネルのインターネット使用データを基とした統計予測
- 調査期間：2010年12月度集計

<検索サービス定義>

本調査において検索サービスをインターネット上の情報を総合的に提供している検索サービス及び特定情報（ニュース・動画）に限定した検索サービスと定義します。

アウンコンサルティング株式会社

〔事業内容〕 アジア圏を中心としたグローバルマーケティング支援(多言語のウェブ制作・メディア運営・販促支援・翻訳)

〔設立年月日〕 1998年6月8日 [本社所在地] 東京都文京区後楽 1-1-7 グラスシティ後楽 2F

〔代表者〕 代表取締役 信太明 [資本金] 339,576 千円 [会社 URL] <http://www.auncon.co.jp>

〔プレスリリースに関するお問合せ〕 広報担当 渡辺 / TEL: 03-5803-2459 MAIL: pr@ auncon.co.jp

〔調査に関するお問合せ〕 担当 古川 / TEL: 03-5803-2777 MAIL: research@ auncon.co.jp